

地域に貢献する学校への変革と次世代の地域を支える 人材の育成を目指して



県立和光高等学校 校長 いまにし 今西 よしのり 善徳

1 本校の概要

昭和47年創立、「創造する力を伸ばし、協働する元気な集団を育てる学校」を目指す学校像に、地域に根ざした学校として「創造」と「協働」をキーワードに教育活動に取り組んでいる。入学時は生活習慣や基礎学力に課題を有する生徒もいるが、少人数学級編成の活用、学校設定教科「ベーシック」による学び直し、基礎基本を大切にしたり分かりやすい授業の実践、遅刻指導などのきめ細やかな生活指導を通じて、多様な進路希望の実現を目指している。

2 本校の特色ある教育体制と取組

(1) 2学年にわたる少人数学級編成

平成13年度より1学年に少人数学級編成を導入し、保護者との連携を図りきめ細やかな学習指導・生徒指導で効果を上げてきた。今年度より少人数学級編成を2学年にも拡大し、充実した指導を実施している。

(2) 学校設定教科「ベーシック」の実施

小中学校の学習内容（国語・数学・英語）のつまづきを発見・解消することにより高校の学習の理解度を促進させることを目標に全学年で、TTによる指導を実施している。生徒が自学自習形式で学びを進める中で疑問点を質問する形式で、生徒の学習習慣の確立、自発的学習意欲の向上、基礎学力の定着を図っている。また、「ベーシック」を通して一般常識を身に付けることにより就職試験等の対策や社会人としての素養を身につけさせる効果も出ている。

(3) 能力・適性に応じた授業の充実

- ア 2学年の英語及び数学の授業において、2クラスを3展開し、習熟度別少人数授業を行っている。
- イ 多文化共生推進員、学習サポーター（1年英・数など）、就職支援アドバイザーなどの支援を受けている。

(4) 教育相談体制の充実

平成28年度より、常駐の「学校相談員」が配置されている。またスクール・カウンセラーも配置されており、教育相談活動、教職員研修の充実を図っている。

3 地域社会との連携と国際感覚の育成

(1) 社会体験活動の推進

1年生全員が地域の事業所等で5日間の就業体験活動を実施している。本校は平成18年度より「フレッ

シュ高校生社会体験プログラム」「自分発見！高校生感動体験プログラム」の実施校として、いち早く「就業体験活動」に取り組んだ。今年度より「地域の多様な人材と連携による高校生自立支援事業」「就業体験推進校」の指定を受け、「就業体験活動」として継続している。生徒は、その経験を通じて、社会を構成する一員として自覚を高め、周囲の人や家族への感謝の気持ちを培うとともに、地域との交流を深めている。

(2) 各種ボランティアへの参加

平成19年度からNPO法人「新倉午王山の会」と協力し、午王山の草刈りや落ち葉拾いなどの清掃活動に取り組んでいる。生徒会と生物部が中心となり、以前は荒廃していた午王山の北側斜面を美しい里山へと再生した。また、生物部は午王山の植生の研究にも携わり、その成果をこれらの活動に生かしている。この取組により平成30年度「埼玉・教育ふれあい賞」を受賞した。また、和光市主催の市民まつり・市民体育祭、和光市商工会主催の鍋合戦などの運営、地域の小学校や保育園の行事のお手伝いにも多くの部活動が携わっている。これらの取組を通じて地域との連携を深め、地域コミュニティの在り方や社会貢献の大切さを学んでいる。【午王山ボランティアの様子】



(3) アメリカ・ロングビュー市への高校生派遣事業

平成28年度から和光市主催のアメリカ合衆国ワシントン州のロングビュー市との国際交流プログラムに参加している。平成30年度は、2・3学年生徒9名、職員2名（校長1、教諭1）を派遣し、平和学習、ホームステイ体験学習、そして現地の3つの高校・1つの大学を訪問し交流を行った。今年度は、訪問団が来校し授業や日本文化の体験等を通じて交流を図った。

4 おわりに

～地域に根ざした学校から地域に貢献する学校へ～
本校は地域に支えられ地域とともに成長した学校である。現在は、変化する社会の中で地域社会の期待する人物像も変化している。様々な事業で地域との連携を通じ交流を深める中で、将来、地域に貢献できる次世代の育成を目指して特色ある教育活動を実践する。